

## 2021 年度 事業報告

### 1. 連盟活動報告

#### 1. 総括

JLAU 事業は、各委員会を主体とした事業の実施により、会員向けへの情報発信、CPD 単位取得機会の提供等を行った。

2023 年 IFLA-APR 大会日本開催に向けた活動を「IFLA-APR 大会準備特別委員会」を中心に大会のメインテーマや展開プログラムの関連セミナーを開催し実行した。

JLAU 運営は、理事会、常任理事会、業務執行理事会を開催し、JLAU 運営に必要な協議や調整を行い実行した。また、ALL-JLAU 体制による執行として、2023 年 IFLA-APR 大会日本開催に向けた活動を行った。

地方在住会員向けサービスとして、ネットワーク委員会と連携し、事業セミナー委員会や資格教育委員会におけるオンライン配信セミナーによる CPD 単位取得機会に取り組んだ。

JLAU 活動の情報発信機能の一つとして、ホームページの全面改修、JLAU 団体概要パンフレットの更新を行った。

RLA 資格試験制度の受験参考書となる「ランドスケープアーキテクトになる本 I・II【改訂第 3 版】」の出版を行った。

IFLA 活動における未加入国サポートの一環として親交のあるトンガ日本大使館に対して、トンガ沖災害に対する義援金・救援物資を JLAU ニュース受信者(会員・セミナー登録者等)に募り、義援金 54.8 万円、救援物資を大使を通じて贈呈した。

上記の事業及び運営により、概ね円滑な執行が出来た。

#### 2. 定時社員総会の開催

2021 年 6 月 26 日(土)13:00~14:30 株式会社ランドスケープ・プラス会議室をリアル会場として WEB 会議ツール (Zoom ミーティング) を活用した事前登録制によるハイブリッド出席型バーチャル総会を開催した。定款第 18 条に基づき定足数の確認後、下記の議案の審議が行われ、原案通り承認された。

- 第 1 号議案 2020 年度 事業報告
- 第 2 号議案 2020 年度 収支決算報告・監査報告
- 第 3 号議案 2021 年度 事業計画案
- 第 4 号議案 2021 年度 予算計画案
- 第 5 号議案 理事改選
- 第 6 号議案 ランドスケープ憲章特別委員会解散

第 7 号議案 TOKYOGREEN 推進会議特別委員会解散

第 8 号議案 WEB 企画特別委員会解散

第 9 号議案 屋外パブリックスペースの設計手法特別委員会解散

#### 3. 理事会等の開催

2021 年度は、理事会 3 回、常任理事会 11 回、業務執行理事会 8 回を開催、その他電子による報告や審議により、JLAU 事業及び運営の執行を行った。

#### 4. 会員動向

2022 年 4 月 1 日現在の会員数は、総会員数 279 名(社)となり、2021 年同時期から増 10 名(社)となった。内訳会員数(増減数)は、1)正会員 239 名(+2)、2)一般会員 25 名(+7)、3)学生会員 4 名(±0)、4)企業・団体会員 11 社(+1)、6)名誉会員 0 名(±0)。

### II. 委員会活動報告

#### 1. 総務委員会(委員長:棚瀬新一朗)

当委員会は、1)総会、常任理事会、理事会開催に関する議事、日程調整。2)会の運営に関わる諸規則の確認。3)財務・会計の確認。に関すること等を行った。諸規則の改定検討と共に、各委員会、事務局のシステム化対応として手順書整備の推奨、重要案件とした JLAU 全体運営の IFLA-APR 大会日本開催を見据えた 2021 年度活動状況を踏まえた会員活動の提案等を常任理事会にて行った。これらのことから、概ね円滑な運営ができたと考える。予算はない。

#### 2. 広報委員会(委員長:田嶋 豊)

当委員会は、ホームページ等を活用し、国内外にランドスケープアーキテクト(RLA)の社会的役割を周知し、ステークホルダーへむけてわかりやすく JLAU の活動情報を提供することを目的とする。今年度は、IFLA-APR 大会日本開催の機運醸成を図るために、JLAU 団体概要パンフレットの更新、業界誌への記事投稿、日本造園学会ランドスケープ作品選集への広告掲載を行った。また、2022 年 6 月下旬の公開予定の JLAU 新ホームページのコンテンツの企画、調整、作成を行った(2022 年度継続事業)。これらのことから、概ね円滑な運営ができたと考える。収支は+2,063,600 円(ホームページ作成代金支払未対応)。

### 3. IFLA 委員会(委員長:保 清人)

当委員会はIFLA(国際ランドスケープ連盟)の活動に貢献することを目的とする。IFLA世界大会、IFLAアジア太平洋大会へのオンライン出席と報告、IFLAワーキンググループへの参加。国内での周知シンポジウムの開催。アジア太平洋の代表国としての対応。2023年 IFLA-APR大会準備特別委員会との連携。アジア太平洋の3つの役職に3名(上原、福岡、保)選出された。トンガ沖災害に対する義援金・救援物資をJLAU ニュース受信者(会員・セミナー登録者等)に募り、義援金 54.8 万円、救援物資を大使を通じて贈呈した。これらのことから、概ね円滑な運営ができたと考えられる。収支は+200,000 円(翻訳未対応)。

### 4. 技術委員会(委員長:岩井 洋)

当委員会はRLA 活動領域の拡充を図ることを主目的とする。技術アーカイブ活動として「グリーンインフラ」を主軸テーマとして活動。テーマセミナー(グリーンインフラ)の開催により、リモートによる会議開催が定着し、定期的な開催が実施出来た。さらに若手の参画が活動を活性化させた。今後は技術資料作成に重点を置き取り組む必要がある。これらのことから概ね円滑な運営ができたと考えられる。収支は+401,666 円(技術資料作成未対応)。

### 5. 事業セミナー委員会(委員長:鈴木裕治)

当委員会は事業セミナーの活動運営に関わる業務を行うことを目的とする。事業として、1)各部会の取りまとめ及び、各事業に関する運営調整。2)事業運営に関わる共通事項の確認。3)財務・会計に関すること等を行った。各部会の定期的な開催により、スムーズな運営が図られていると考える。オンライン配信についてのスキルも向上してきており、現地とオンラインによる参加が両立できた部会も出ており、オンライン配信の必要設備の予算化、部会ごとの共有方法など検討する必要がある。IFLA-APR 大会日本開催に向けて部会の活動が活性化しているところとそうでないところがあり、大会参加について部会活動を促して行きたいと考える。収支は+35,064 円。

### 6. 資格教育委員会(委員長:八色宏昌)

当委員会はRLA 資格制度の普及やJLAU 会員の継続教育の推進に関する活動を行い、更なるランドスケープ領域の発展を目指すことを目的としている。実施事業は、RLA 資格制度の普及、CPD 単位の取得推進、研修プログラムの企画・運営に関わる業務を行っている。2021 年度はRLA テキスト出版(なる本改訂版企画)に向け、受験対策セミナー、フェロー制度の推薦手続への対応することで事業の円滑な推進が図られたと考える。収支は+159,562 円。

### 7. ネットワーク特別委員会(委員長:吉武宗平)

当委員会は地方会員からの発信とサービスを目的とし、現状を考慮した 4 エリア(北海道、中部、関西、

九州)において、それぞれ独自の企画運営によりJLAU の具体的な行動を示すものである。今年度は新型コロナウイルスの影響により、いくつかの遠隔による企画及び会議を除いて、殆どの活動が中止又は延期を余儀なくされた。その中で、2023 年の IFLA-APR 大会日本開催に向けたテーマセミナーとして「ランドスケープカルチャー」の 2 回のオンラインセミナー開催をサポートし、多方面からの数多くの参加者を得たのは大きな成果であった。これらのことから概ね円滑な運営ができたと考えられる。収支は+47,516 円。

### 8. IFLA-APR 大会開催準備特別委員会(委員長:平賀達也)

当特別委員会は「IFLA-APR2023 日本大会」の企画・準備・運営を行うことを目的に活動する。2021 年度総会及び理事会で承認を得た事業計画をもとに開催概要の詳細(2023 年 11 月中旬の3日程度、二子玉川ライズ、会場参加とオンライン配信のハイブリッド方式)を確定させた。また、大会開催後の JLAU の発展を見据え、オール JLAU による取組み、連携を強化する一環として、Road to 2023 (APR 大会開催の機運上昇に向け開催する3副会長を中心とした連続セミナー)、会議への若手会員の参加などを進めた。これらのことから概ね円滑な運営ができたと考えられる。

特別会計の収支は+1,150,00 円(対面活動未対応のため支出 0 円)。

### 9. 大阪関西万博特別委員会(委員長:忽那裕樹)

当特別委員会は、2025 年に大阪・夢洲で開催される日本国際博覧会後の、ランドスケープの観点からアーバンデザインを先行して提案できる強みを活かした、アフター万博を 2024 年に提案することを目的とする。2021 年度は委員会を開催し、提案の方向性の議論、それに伴う事例の調査等を行い、それらの内容を資料にまとめて成果とした。これらのことから概ね円滑な運営ができたと考えられる。予算はない。

### 10. RLA になる本改訂編集特別委員会(委員長:八色宏昌)

当委員会の事業は「ランドスケープアーキテクトになる本 I・II(2015)」(以降、「なる本」とよぶ)の改定の企画・編集、出版社との出版に係る契約・編集等の連絡および調整を目的としている。2021 度は、特別委員会の運営、改定版の編集、出版社との調整を実施し、2022 年 3 月に出版され、事業の円滑な推進が図られたと考える。収支は±0 円。

### 11. JLAU エキシビジョン特別委員会(委員長:高橋靖一郎)

当特別委員会は、ランドスケープ界の優れた作品、若手実務者、技術者を評価し、JLAU の活動を通して社会に認知を広め、活躍の場をつくりだすことを目的とする。事業内容の検討、調整の着手が遅れ、十分な告知および募集期間が確保できなかったことから、開

催を断念した。2022 年度に持ち越すことで、事業の成果を高めることとした。収支は+1,341,000 円(デザイン外注支払未対応)。

**12. 東日本大震災復興記録特別委員会**  
**(委員長:高橋靖一郎)**

当特別委員会は、東日本大震災発災から 10 年の節目に、復興において RLA が携わった事例について事業プロセスと果たした役割を考察し、記録することを目的とする。2021 年度期限付きで活動を想定していたが、事例の考察を重ねるなかで、そのプロセスを公開し、関係者や有識者との議論を深めたほうが活動の意義が高まるとの結論に至り、活動を 1 年延期することとした。2021 年度は事例レポートの WEB 公開を成果とする。収支は+800,000 円(WEB メディア掲載により支出なし)

## 2021年度 収支決算報告・監査報告

### I. 経常収益

- ・経常収益は 4,045,551 円となり、前年度(3,392,645 円)比 653,016 円の増額となりました。
- ・内訳は受取会費が 3,229,000 円、受取入会金が 135,000 円、事業収益が 681,600 円となっており、昨年度より多くの事業が行われたことにより増額となりました。
- ・会費の未収金は 882,000 円、前年度から 124,000 円の増額となりました。引き続き会費の納付のお願いをしております。

### II. 経常費用

- ・経常費用は 1,936,022 円となり、前年度(1,687,948 円)比 248,074 円の増額となりました。
- (1) 事業費
  - ・事業費は 737,541 円となり、前年度(332,365 円)比 405,176 円の増額となりました。
  - ・主な増額項目は以下の通りです。
    - a. 旅費交通費(+46,100 円)、備品消耗品費(+51,967 円)、諸謝金(+297,191 円)、広告啓発費(+50,000 円)、雑役務費(+48,594 円)、等
  - ・主な減額項目は以下の通りです。
    - a. 外注費(-182,056 円)、会場費(-32,721 円)
- (2) 管理費
  - ・経常費用のうち管理費は 1,198,481 円となり、前年度(1,355,583 円)比 157,102 円の減額となりました。
  - ・主な増額項目は以下の通りです。
    - a. 通信運搬費(+91,954 円): ZOOM 法人契約(Webiner 利用)など
  - ・主な減額項目は以下の通りです。
    - a. 印刷製本費(-117,723 円): 総会資料の簡素化による減額など
    - b. 支払負担金(-78,219 円): IFLA 負担金額の減額など

### III. 結果

- ・当期経常増減額は、前年度比 404,942 円増の 2,109,639 円となり、法人税、住民税及び事業税の 70,000 円を引いた当期一般正味財産増減額は、2,039,639 円となりました。一般正味財産期首残高 7,537,745 円を加えました一般正味財産期末残高及び正味財産期末残高は、9,577,384 円となりました。

## 正味財産増減計算書

自 2021年4月1日 至 2022年3月31日

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費	3,229,000	3,140,000	89,000
正会員会費	2,560,000	2,530,000	30,000
一般会員会費	110,000	95,000	15,000
学生会員会費	9,000	15,000	△ 6,000
企業・団体会員会費	550,000	500,000	50,000
② 受取入会金	135,000	170,000	△ 35,000
入会金	135,000	170,000	△ 35,000
③ 事業収益	681,600	82,600	599,000
講習講演会関係収益	681,600	82,600	599,000
④ 雑収益	61	45	16
受取利息	61	45	16
経常収益計	4,045,661	3,392,645	653,016
(2) 経常費用			
① 事業費	737,541	332,365	405,176
外注費	0	182,056	△ 182,056
旅費交通費	46,100	0	46,100
通信運搬費	31,047	168	30,879
備品消耗品費	53,472	1,505	51,967
印刷製本費	26,420	0	26,420
賃借料	4,620	0	4,620
諸謝金	376,263	79,072	297,191
会場費	4,200	36,921	△ 32,721
広告啓発費	55,000	5,000	50,000
雑役務費	48,594	0	48,594
交際費	33,073	7,364	25,709
雑費	58,752	20,279	38,473
② 管理費	1,198,481	1,355,583	△ 157,102
外注費	264,000	264,000	0
旅費交通費	1,916	1,080	836
通信運搬費	289,330	197,376	91,954
備品消耗品費	921	33,283	△ 32,362
印刷製本費	3,230	120,953	△ 117,723
賃借料	132,000	132,000	0
支払負担金	421,161	499,380	△ 78,219
会議費	1,980	8,204	△ 6,224
雑役務費	24,000	64,000	△ 40,000
租税公課	500	1,050	△ 550
交際費	19,426	0	19,426
雑費	40,017	34,257	5,760
経常費用計	1,936,022	1,687,948	248,074
当期経常増減額	2,109,639	1,704,697	404,942
税引前当期一般正味財産増減額	2,109,639	1,704,697	404,942
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	2,039,639	1,634,697	404,942
一般正味財産期首残高	7,537,745	5,903,048	1,634,697
一般正味財産期末残高	9,577,384	7,537,745	2,039,639
II 正味財産期末残高	9,577,384	7,537,745	2,039,639

## 貸借対照表

2022年3月31日 現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	9,270,921	6,845,243	2,425,678
未収金	882,000	758,000	124,000
流動資産合計	10,152,921	7,603,243	2,549,678
資産合計	10,152,921	7,603,243	2,549,678
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	26,400	8,442	17,958
仮受金		40,000	△40,000
預り金	549,137	17,056	532,081
流動負債合計	575,537	65,498	510,039
負債合計	575,537	65,498	510,039
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 一般正味財産	9,577,384	7,537,745	2,039,639
正味財産合計	9,577,384	7,537,745	2,039,639
負債及び正味財産合計	10,152,921	7,603,243	2,549,678

## 財務諸表に対する注記

### 1 重要な会計方針

#### (1) 消費税等の会計処理について

消費税等の会計処理は、税込み方式を採用している。

### 2 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	債 権 金 額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未 収 金	882,000	0	882,000
合 計	882,000	0	882,000

## 附属明細書

### 1 基本財産の明細

該当ありません。

### 2 引当金の明細

該当ありません。

## 財産目録

2022年3月31日 現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場 所 ・ 物 量 等	使 用 目 的 等	金 額	
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	494,024
	預金	普通預金 三菱UFJ銀行渋谷中央支店	運転資金として	5,590,440
		通常貯金 ゆうちょ銀行	運転資金として	2,638,457
		普通預金 三井住友銀行渋谷支店	運転資金として	548,000
		預金計		8,776,897
未収金	正会員の会費48名分、一般会員の会費3名分、学生会員の会費6名分及び企業・団体会員の会費1社分		882,000	
流動資産合計			10,152,921	
資 産 合 計			10,152,921	
(流動負債)	未払金	株式会社スタジオゲンクマガイ	パンフレット制作費	26,400
	預り金	会員20名からの預り金	トンガ王国への寄付金	548,000
		源泉所得税	報酬の源泉所得税	1,137
		預り金計		549,137
流動負債合計			575,537	
負 債 合 計			575,537	
正 味 財 産			9,577,384	

## 監査報告書

## 監査報告書

2022年6月9日

一般社団法人  
ランドスケープアーキテクト連盟  
会長 戸田芳樹様

一般社団法人  
ランドスケープアーキテクト連盟

監事 橋 俊光 印

監事 吉村純一 印

私たち監事は、一般社団法人ランドスケープアーキテクト連盟の  
2021年4月1日から2022年3月31日までの2021年度における会計及び  
業務の監査を実施し、以下のとおり報告します。

### 1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査については、帳簿及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査  
手続を実施し、財務諸表の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会等の会議に出席し、理事からの業務の報告  
を聴取し、関係書類の閲覧その他必要と思われる監査手続を実施して、  
理事の業務執行の妥当性を検討しました。

### 2. 監査意見

- (1) 財務諸表〈貸借対照表、正味財産増減計算書〉は資産、負債及び正味  
財産増減の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、真実であると認めます。
- (3) 理事の職務執行に関して、不正行為又は法令もしくは定款に違反する  
重大な事実は認められません。

以上